

仙台市博物館協議会会議録

1. 会議の年月日 令和6年5月28日(火)

2. 開会及び閉会の時刻 午後3時00分から午後4時30分まで

3. 出席委員の氏名(五十音順・敬称略)

籠橋俊光、鹿又喜隆、佐藤琴、佐藤淑子、高橋たくみ、長岡龍作、七海雅人、若生彩

※佐治ゆかり、伊達泰宗委員は欠席。

4. 説明者の職及び氏名

館長＝今井吏、副館長＝樋口智之、庶務係長＝久慈裕子、学芸企画室長＝酒井昌一郎、

学芸普及室長＝水野沙織、指導主事＝永山達郎、学芸企画室主任＝寺澤慎吾、

学芸企画室総括主任・記録＝佐々木徹

5. 委嘱状交付

委員の任期は令和6年度から令和7年度までとする。

6. 会長・副会長選出

籠橋委員からの推薦により長岡委員を会長に、鹿又委員からの推薦により籠橋委員を副会長とする。

7. 議題及び報告並びに議事の要旨

(1) 会議録署名委員の選任

会長と籠橋委員とする。

(2) 報告事項

① 企画展「こりゃ めでたい」の結果報告について(学芸企画室長報告)

「資料1」のとおり。

〔委員からの質問〕

3万人を超える観覧者があり、かなりたくさん人が入った印象である。その要因は何か。

〔事務局からの回答〕

この企画展では、気軽に観覧できる雰囲気づくりを心がけ、広報も「親子で一緒に来てほしい」というスタンスで行った。その結果、1人で観覧するところが2～3人と増え、多くの観覧者を迎えることができたものと考えている。

〔委員からの意見〕

しばらく休館だったところから再開館し、その期待感が大きかったように思う。また、企画展タイトルのネーミングも良く、観覧している時には大人が子どもに語りかける様子が見受けられた。シールも印象的で、解説用のパネ

ルにもおもしろい雰囲気を感じられた。会場内でおしゃべりして良いという環境にしたことも大変良かった。

〔委員からの質問〕

展示室リニューアルに対しては、来館者からどのような意見があったか。

〔事務局からの回答〕

LED 照明にしたことに伴う光のまわり方やガラスの透過度に対して、作品が本当に見やすくなり、すごく良かったという声が多く聞かれた。

〔委員からの意見〕

授業の一貫で大学の1～2年生を連れて仙台市博物館を見学した。常設展から工夫がみられ、非常に楽しい印象だった。ただし、留学生から、今回の企画展のタイトルの意味がわからないという意見が多く出ていた。外国人でも、もっとわかりやすいタイトルだと良かったかもしれない。

〔事務局からの回答〕

看板等にスマホをかざせば翻訳できる機能なども出てきているため、そのような方法も可能ではあるものの、キャプションが日本語だけだった点も含めて今後検討したい。

〔委員からの意見〕

開会式の際に体験展示をやっていた郡市長のうれしそうな表情が印象的だった。伊達武将隊の演舞も良かったし、そうした様子がテレビなどで放映されたことの影響も大きかったように思う。大きなロッカーも設置されて来やすくなり、館庭がきれいになったことも親子連れには好印象だと感じられた。ショップやカフェだけを利用する人も多かったのではないかな。全体的に良い場所になってきている。

(3)協議事項

①令和6年度事業計画について

i 展示・公開(学芸企画室長報告)

「資料2」のとおり。

ii 教育・普及事業(学芸普及室長報告)

「資料3」のとおり。

〔委員からの質問〕

常設展と特別展を連動させる館もあるが、仙台市博物館の場合はどうであるか。

〔事務局からの回答〕

当館ではケースバイケースだが、直近では夏の特別展「大航海時代へ」で収蔵資料を組み込むかたちで展開する予定。

〔委員からの意見〕

仙台藩と戊辰戦争の関係など、小学校だと会津に行く修学旅行前に講話が聞けると勉強になり、大変ありがたい。教員向けの研修では、現在設定されている日程で参加しやすいものとなっているが、6月上旬までに学校へ情報をもらえれば一層参加しやすい。

〔委員からの質問〕

「屏風でバードウォッチング」は、何の屏風を使うのか。また、公開方法はどうか。近年では、学芸員自身が動画を制作する例がみられる。

〔事務局からの回答〕

仙台藩三代藩主の伊達綱宗筆の花鳥図屏風を使用し、その中に描かれている鳥を観察するイベントとする予定。その様子は、せんだいチューブで公開する。

〔委員からの意見〕

その動画を閲覧できる場所について、学校や子どもたちがアクセスしやすい位置へ置いておけると良いと思う。

〔委員からの意見〕

「屏風でバードウォッチング」について、その鳥が館庭にいるならば、そのことにも触れられると楽しめるのではないかな。

〔委員からの質問〕

収蔵資料データベースは非常に良い取り組みだが、冊子状の資料で各ページが全部出ていないものもあった。今後の公開計画はどうなっているのか。

〔事務局からの回答〕

名品図録に掲載した画像そのままの状態となっている。写真が整っているものについては、できるだけ早く公開できるように努めたい。

②親鸞聖人生誕 850 年特別展「親鸞と東北の念仏一ひろがる信仰の世界―」について(学芸企画室主任報告)
「資料4」のとおり。

〔委員からの質問〕

巡回展ではなく、今回東北の寺院への調査により開催する意義深い展覧会だが、広報戦略はどうなっているのか。SNSなどを積極的に活用する予定はあるか。

〔事務局からの回答〕

各本山を通じて各地の寺院へ広報する予定であり、高齢者層向けの雑誌等への積極的な広報も考えている。SNSについては今後検討していきたい。

〔委員からの質問〕

どれくらいの資料が展示替えされる予定であるか。

〔事務局からの回答〕

国指定品は半期以下となるが、慕帰絵(ぼきえ)の松島の場面等、模本を利用してなるべく見られる状態にしたい。

〔委員からの意見〕

現代とどうつながっているのかがわかると、子どもたちや親たちにも展示の良さを訴えられるのではないか。

〔事務局からの回答〕

検討する。

〔委員からの意見〕

山形にも真宗寺院が多くある。仙台にも来やすく、早めに広報できると効果的だ。

〔事務局からの回答〕

当館学芸員の調査成果が伝わるよう、わかりやすさも考慮して広報していきたい。

〔委員からの意見〕

以前の協議会ですでに意見が出ていたが、再開館第2弾、第3弾という表示が付いていないので、ぜひ入れてほしい。

〔事務局からの回答〕

対応する。

③企画展「新収蔵品展(伊達な優品勢ぞろい PartⅢ)」について(学芸企画室長報告)

「資料5」のとおり。

〔委員からの意見〕

「こりゃめでたい」のようなキャッチフレーズ的なものがあると親しみが持てて人気が出る。検討してほしい。

〔事務局からの回答〕

検討する。

〔委員からの意見〕

企画展だと図録がないが、その代わりになるような媒体があるととてもわかりやすくなる。館だよりの活用や簡易なパンフレット等、その時だけで終わらせない、振り返ることができる工夫等も行ってもらいたい。

〔事務局からの回答〕

予算規模が小さく難しい面もあるが、SNS 等のデジタル媒体も活用して対応していければと考えている。パンフレットがポケットガイドに発展した例もあるので工夫していきたい。

〔委員からの質問〕

資料収集活動は博物館にとって重要な活動であり、それが「PartⅢ」まで続いていることはすごい。家ごとに寄贈された資料が多い印象があるが、何か特色はあるか。

〔事務局からの回答〕

本展では博物館資料の多様な面を見せたいと考えている。具体的にはなお検討していきたい。

〔委員からの質問〕

目に見えるようにすると寄贈しやすくなるように思うが、新収蔵品展の展示予定資料は収蔵資料データベース等で公開されているのか。

〔事務局からの回答〕

そのきっかけとしての企画展になると位置づけている。

8. その他

(1) 次回開催日程について(副館長報告)

「資料6」のとおり。